# まえがき

本トピック・リポートは、平成７年に実施した流動研究タスクフォース「ミャンマー経済調査」（主査　桐生稔）の成果をまとめたものである。このリポートに先立ち、９５年９月にアジ研緊急リポート『ミャンマーの新展開：解放と成長への助走』が作られ、アウンサン・スーチー女史解放（７月10日）に合わせてその背景等を簡潔にかつ迅速に報告した。このリポートは、緊急リポートを補完し、最近のミャンマー情勢を現地調査に基づき、政治、マクロ経済、農業、外交、周辺諸国関係、経済協力等の各方面から包括的に扱っている。それ故に緊急リポートとあわせて読まれることをお薦めする。

スーチー女史解放は、それまで軍政に批判的であった日本・西欧諸国に好印象を与え、軍政が“文民体制”へソフト・ランディングする可能性が強まった。こうした動きを背景として、東南アジアの外交も活発化している。ASEAN にはベトナムが７月28日に正式加盟し、また12月15日にはバンコクにおいて関係国の非公式首脳会談が行われ、ラオス、カンボジア、ミャンマーを加えた拡大 ASEAN （10か国）の統合への動きも活発化してきている。しかし、ミャンマーにおいては、民主化勢力のエネルギーが回復されるようなことがあれば、同勢力の動きによっては、新たな展開も予想され、まだ先行き不透明感は残っている。

同タスクフォースは、95年６月に桐生（中部大学）を主査として、西澤信善（神戸大学教授）、横田高明（中部大学教授）、峯陽一（中部大学講師）および高橋昭雄（アジア経済研究所在ヤンゴン海外調査員）をメンバーとして結成された。西澤、横田、峯は10月に、桐生は11月に現地調査を行い、最新の情報の収集に努めた。高橋は、現地で農業に関する調査を行っていたので、その専門知識から本報告に協力した。

1995 年 12 月

桐生　稔